

# 白石遺跡発掘調査報告Ⅳ

- 河上金物株式会社濁水処理施設移設に伴う埋蔵文化財発掘調査 -

2009 年

富山県射水市教育委員会



調査区全景（北西から）



出土遺物集合写真

# 白石遺跡発掘調査報告Ⅳ

－河上金物株式会社濁水処理施設移設に伴う埋蔵文化財発掘調査－

2009年

富山県射水市教育委員会

## 例 言

1. 本書は富山県射水市鶯塚に所在する白石遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は北陸新幹線整備事業計画に伴う、河上金物株式会社濁水処理施設移設に合わせて、射水市教育委員会・河上金物株式会社・北陸航測株式会社の3者間で協定書を取り交わし、実施した。
3. 調査期間・面積  
現地調査 平成20年12月1日～平成21年2月13日・337㎡  
室内整理作業 平成20年12月15日～平成21年5月29日
4. 調査は、射水市教育委員会が主体となり、同文化・スポーツ課文化係 尾野寺克実、金三津英則の監督のもと、北陸航測株式会社 稲垣裕二、菊地由里子が担当した。
5. 本書の執筆・編集は、金三津英則、稲垣裕二、菊地由里子、朝田要が行った。
6. 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の諸氏、諸機関からご教示とご協力を頂いた。記して謝意を表す。(五十音順 敬称略)  
江藤敦 鹿尚昌也 野垣好史 古川知明 宮田進一
7. 調査参加者は以下のとおりである。(五十音順 敬称略)  
[現地作業参加者]  
明石秋夫 岩脇清次 上田一夫 大垣敬二 京角三朗 酒井稔 清水憲一 高波宗之 道谷茂雄  
道德清一 中井良作 中村弘 西野彰 端充弘 八田弘 濱野勇 三上正夫 水上吉郎 山本義男  
[室内整理作業参加者]  
池田昌美 坂高宏枝 高木幸子 藤井美紀
8. 発掘調査の出土遺物及び記録資料は、射水市教育委員会が保管している。

## 凡 例

1. 本書で使用した方位は真北で、標高は海拔高を用いた。
2. 遺構の表記は次の記号を用いた。  
SD：溝跡 SE：井戸跡 SK：土坑 SP：ピット SX：不明遺構
3. 調査にはグリッド法を用いた。大グリッドは東西方向をアルファベット(A、B・・・)、南北方向を算用数字(1、2・・・)とし、大グリッド内を2m小グリッドに細分化し(第3図参照)、これらを組み合わせて表記した(例:A1-1)。また、出土遺物には管理番号(001～)を付け、遺物注記は遺跡名(SI)・管理番号・グリッド名・遺構名・層位・日付記入を基本とした。
4. 遺構実測図の縮尺は各々のスケールとともにその縮尺を表記した。遺物実測図の縮尺は1/4を基本としたが、縮尺の異なるものはその都度縮尺を示した。
5. 出土遺物の番号は、遺物実測図・遺物観察表・写真図版の遺物番号にそれぞれ対応している。
6. 土色・土器胎土色の観察には農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帳』(2002年版)を使用した。
7. 遺構・遺物実測図内の細部指示は以下のとおりである。



:柱根



:煤、油煙痕



:漆器文様部



:炭付部

## 目次

第1章 遺跡の位置と環境	1
第2章 調査の経緯	2
第3章 遺構及び出土遺物	4
第4章 白石遺跡自然科学分析	9
第5章 総括	11
引用・参考文献	12

## 挿図目次

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡	1
第2図 調査区位置図	2
第3図 グリッド配置図	3
第4図 基本土層図	3
第5図 遺構実測図 [A・B-1区]	5
第6図 遺構実測図 [B-2区]	7
第7図 遺構実測図 [C区]	8
第8図 樹種観察図	10
第9図 遺構配置図	11
第10図 白石遺跡出土漆器一覧	12
第11図 遺物実測図 [SD01 SD06 SD07 SD08]	13
第12図 遺物実測図 [SD08 SD09]	14
第13図 遺物実測図 [SD09 SD40 SD48 SD53 SD100 SK03 SK42 SE96 包含層 表土中]	15

## 表目次

第1表 樹種同定一覧	9
第2表 樹種観察表	9
第3表 遺物観察表	16
第4表 遺物観察表 [金属製品]	16
第5表 遺物観察表 [石製品]	16
第6表 遺物観察表 [漆器]	16
第7表 遺物観察表 [木製品]	16

## 巻首図版目次

巻首図版 白石遺跡遠景 白石遺跡出土遺物

## 図版目次

図版1 調査区全景等 調査区全景 遺物出土状況 [B-2区] SD08	17
図版2 [A区] 調査区完掘状況 遺物出土状況 遺構完掘状況 SD01 SD06	18
図版3 [B-1区] 調査区完掘状況 遺物出土状況 土層 遺構完掘状況 SD06 SE96 SD07	19
図版4 [B-2区] 調査区完掘状況 遺物出土状況 遺構完掘状況 SD08 SD09	20
図版5 [C区] 調査区完掘状況 遺物出土状況 遺構完掘状況 土層 SP69 SP86 SD09	21
図版6 作業写真	22
図版7 出土遺物 SD01 SD06 SD07 SD08	23
図版8 出土遺物 SD09 SD40 SD48 SD53 SD100 SK03 SK42 SE96 表土中 包含層	24

## 第1章 遺跡の位置と環境

富山県西部に位置する射水市は、平成17年に射水郡の全町村(小杉町、大門町、大島町、下村)と新湊市が合併して発足した。地形をみてみると、北側には富山湾に面して射水平野が広がり、南側には小丘陵からなる射水丘陵を望む。庄川と神通川に挟まれた射水平野は、東西約11km、南北約7kmを測る低湿地帯である。この地域は、約6,000年前の縄文海進期には標高2～3mの等高線あたりまでが海であったが、地球寒冷化に伴う海退によって、縄文時代後期～晩期には砂丘と後背湿地が形成された。そのうち射水丘陵に源を持つ中小河川が丘陵を浸食し、下流域に運搬された土砂が、蛇行した河川に堆積したために、河川の流れが滞って沼沢地となった。この沼沢地などに泥炭が堆積することにより、弥生時代には現在の海岸線付近にいたる射水平野が形成された。

旧小杉町鷺塚・白石地内にある白石遺跡は、海岸線から約4.5km内陸で標高約1～2mの平野部に位置し、東西に延びる国道8号・JR北陸本線に南北を、下条川・新堀川に東西を挟まれている。

弥生時代中期は、射水平野での稲作開始の時期とされており、これ以降、平野部で遺跡が確認されるようになる。後期から古墳時代前期にかけては平野部の遺跡が急激に増え、下条川流域周辺の弥生時代の遺跡としては、井戸や溝などの遺構が検出された戸破若宮遺跡、平成3年度に本調査され多量の土器が出土した小杉伊勢領遺跡などがある。また奈良・平安時代から中世にかけての遺構・遺物も、周辺の遺跡の大半で見つかっている。

文献によると、下条川以東の戸破・手崎・小白石などには、平安時代から室町時代末までの約500年に渡って倉垣庄が存在したと云われており、庄内には加茂社の末社が二十社前後と多く分布している。これらの末社はいずれも近世以前の親村に限られ、その動進は古く、南北朝期か室町初期と考えられている[木倉1965]。

このように下条川流域の平野部には、弥生時代中期以降のさまざまな時代の遺跡が分布し、文献上でも確認できることから、現代まで連続と続く人々の生活の営みをうかがうことができる。



第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡 (1/50,000)

## 第2章 調査の経緯

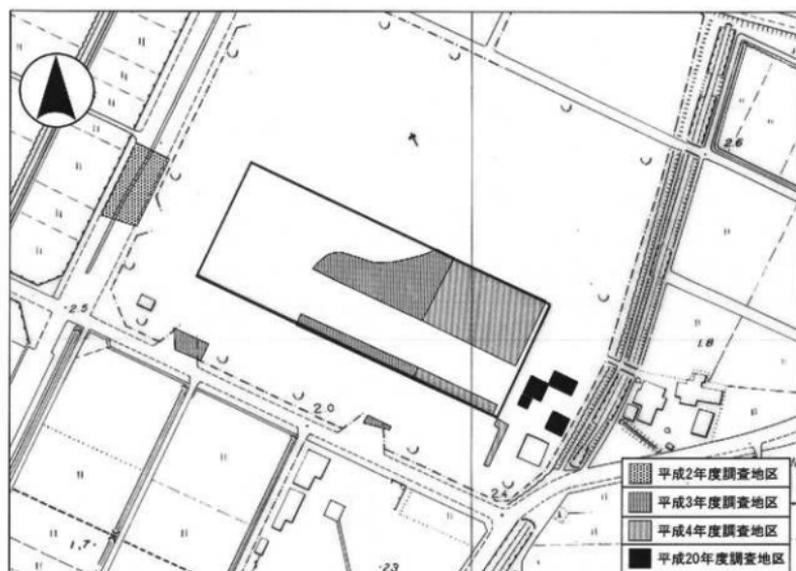
### 第1項 調査に至る経緯

平成19年11月、北陸新幹線整備事業計画に係る移転補償費用の算定調査を実施している株式会社国土開発センターから、埋蔵文化財の取り扱いについての照会があった。計画では、射水市鷺塚地内にある河上金物株式会社（以下「事業者」という。）敷地南端の湧水処理施設が、北陸新幹線本線ルート上にあたり、その北側にある同社の調整池に移設するものであった。移転予定地を含む敷地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である白石遺跡の範囲に該当し、文化財保護法第93条第1項の届出及び埋蔵文化財の保護措置が必要となる土地である。

また、移設予定地は、平成2年の試掘調査で縄文時代・中世の遺構・遺物が確認されている範囲であり、湧水処理施設を移設するには、埋蔵文化財の現状保存が不可能となる部分について記録保存措置を講ずる必要があった。

翌年8月には、事業者との用地交渉を担当する県土地開発公社から本発掘調査の方法について協議があった。当該地での発掘調査は、新幹線整備工事の工程上、平成21年3月までには完了する必要がある。しかし、調査についての具体的な調整を行えるのは10月以降であり、予算の確保等を考慮すると市直営での調査では希望期間までの現地引渡しは不可能な状況であった。

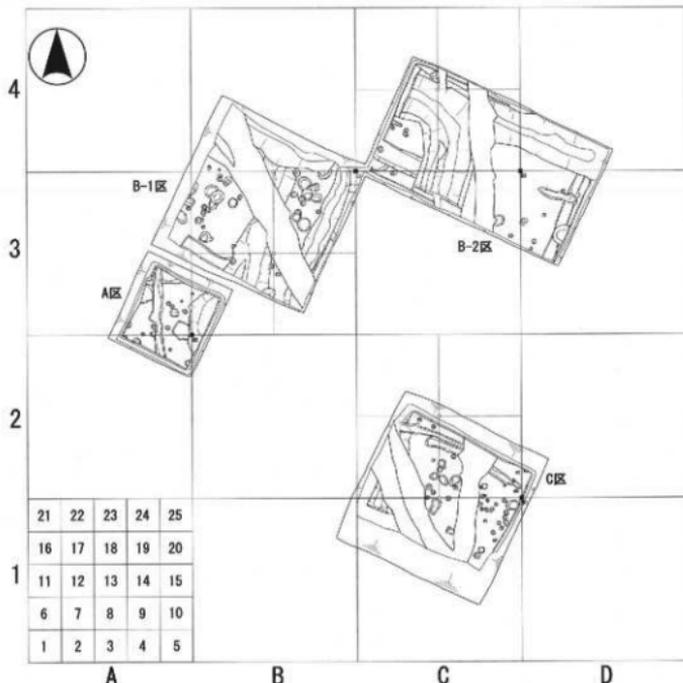
平成20年9月以降、事業者と射水市教育委員会との間で4度の協議を重ね、11月6日には事業者から民間発掘業者へ調査業務を委託する旨の協議確認書を取り交わした。その後、事業者が北陸航測株式会社を発掘調査担当に選定し、射水市教育委員会の監理のもと、調査を実施することとなった。11月25日に原因者である河上金物株式会社と調査担当である北陸航測株式会社及び監理担当の射水市教育委員会の三者間で協定を締結し、12月1日より現地における発掘調査を開始した。



第2図 調査区位置図 (1/2500)

## 第2項 調査の方法

現地確認後、平成16年度北陸新幹線整備事業にて設置した4級基準点を基に基準点・調査区域を設定し、バックホウにて表土を除去した。グリッドの設定には世界測地系を使用した。A1南西隅(X=80520、Y=3750)を起点とし、真北を基線とした10m大グリッドと補足的に5mグリッドを調査区域内を網羅するよう設置した。さらに10mグリッドを2m方眼の小グリッドに細分し遺物一括取上げ・管理に用いた。平行して調査区排水溝掘り、遺構検出作業を人力で行い、検出完了後遺構概略図(1/100)を作成し検出写真を撮影した。調査区をそれぞれA・B-1・B-2・C区に区分けし掘削作業を行った。撮影には主に35mm(白黒・ポジ)を、調査区完掘時には6×7判を、補足的にデジタルカメラを併用して写真撮影を行った。遺物取上げ・平面記録は光波測量器(トータルステーション)を用いた。



第3図 グリッド配置図 (1/300)

## 第3項 基本層序

基本層序は上層からⅠ層：灰黄色土 (25Y6/2)、Ⅱ層：黄灰色土 (25Y6/1)、Ⅲ層：褐灰色土 (7.5YR6/1)、Ⅳ層：淡黄色粘土 (2.5Y8/4)、Ⅴ層：暗赤褐色粘土 (5YR3/2)、Ⅵ層：オリーブ灰色粘土 (5GY5/1)となる。Ⅳ層は地山(旧地表面)で、遺構は全てこのⅣ層から掘り込まれている。Ⅴ層は遺物包含層で、縄文土器を数点確認した。調査区全域にてⅢ層が深く堆積している部分があり、本来の遺構検出面は今回の検出レベルよりも高い位置だったと考えられる。



第4図 基本土層図

### 第3章 遺構及び出土遺物

#### SD01 (第5・11図、図版2)

A区内を南北に延伸する溝である。SK11を切る。深さ0.1mを測る。断面形は皿状を呈する。

1は珠洲摺鉢である。口縁端部が肥厚する外傾・方頭口縁で、端面中央部が窪んでいる。

#### SD06 (第5・11図、図版2・3)

A・B-1区を南北方向に延伸する溝である。A区中央から南東方向へ湾曲する。SD40に切られる。幅15～29m、深さ0.8mを測る。断面形は皿状を呈する。B-1区南側では、下層にオリブ黒色粘土層が堆積している。先に下層が区画溝として機能しており、溝埋没後上層に排水・区画などの機能を持った溝が形成されたと考えられる。遺物は中世土師皿・白磁・珠洲・銅銭・木製品などが出土している。

2はロクロ成形の中世土師皿である。口縁端部を丸く仕上げる。3・4は白磁碗である。3は灰白色の釉を薄く均一に全面施釉する。4は灰白色の釉が内面全体から体部外面下部まで均一に薄くかかる。5は珠洲甕で、長頸で内屈する方頭口縁を持つ。6は銅銭である。元豊通寶が2枚、天聖元寶が1枚重なった状態で出土した。7は不明木製品である。下端部が削られる。

#### SD07 (第5・11図、図版3)

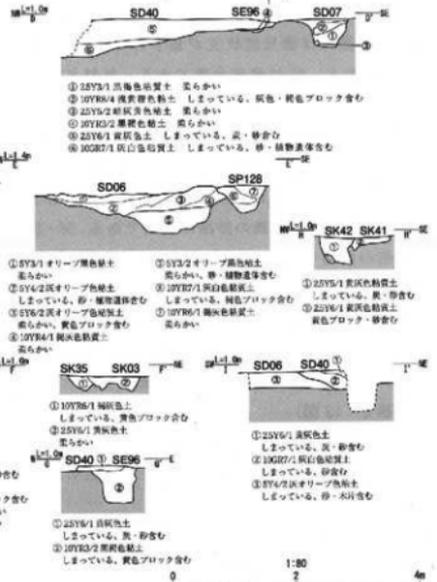
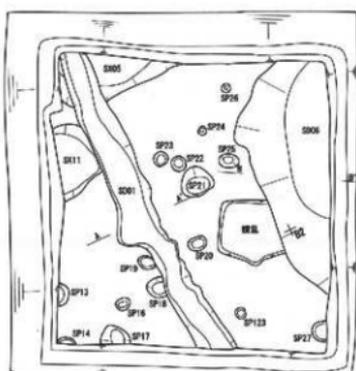
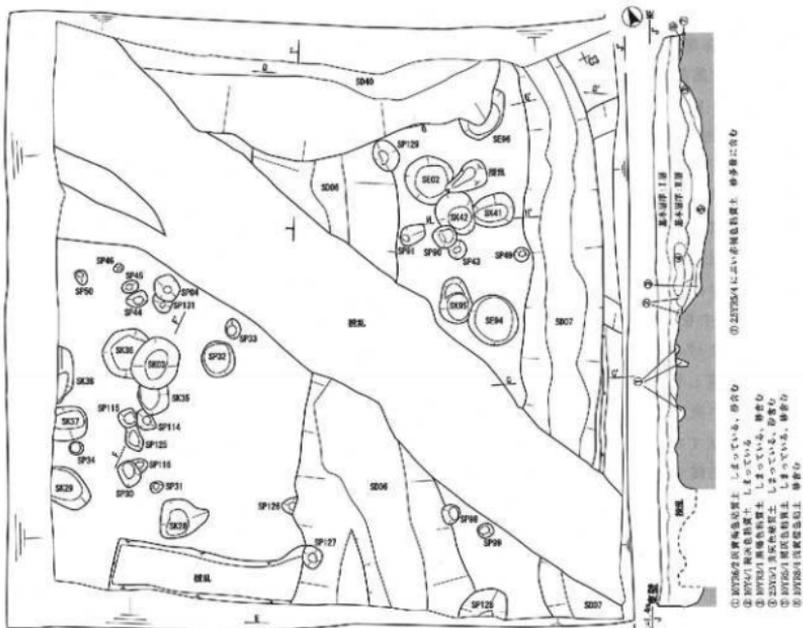
B-1区東側を南北方向に延伸する溝である。SD06と平行に延伸する。調査区東壁際には不明遺構を確認したが、調査用排水溝設置の影響から切り合い関係は不明である。最大幅1.3mを測る。断面形は逆台形状を呈する。下層の灰オリブ粘土層には植物遺体を含む。遺物は上層から中世土師皿・青磁・珠洲・下層からは中世土師皿・箸状木製品などが出土している。

8～10は中世土師皿である。8は非ロクロ成形で口縁部を積み上げる。9・10はロクロ成形で、9は口縁部外面を押さえ、端部を軽く積み上げる。口縁部全体にタール状の油煙が付着する。10は口縁部が上方に伸び一部に油煙が付着する。11は青磁碗である。胎土は焼成不良。灰黄色の釉は高台内側を除いて全体にかかるが、気泡状のムラがみられる。12・13は珠洲摺鉢で、12の底部には回転糸切痕が残る。14は箸状木製品である。両端が削られ、断面形は方形である。

#### SD08 (第6・11・12図、図版4)

B-2区北側を東西方向に延伸する大溝である。SD48を切る。幅23～27m、深さ0.8mを測る。覆土は下層のオリブ灰色粘土と上層の灰褐色粘質土に大別できる。覆土の特徴がSD09と類似しており、SD09に切られているがほぼ同時期に機能していたと考えられる。遺物は上層から中世土師皿・白磁・珠洲・越中瀬戸・釘が、下層からは珠洲・石製品・漆器・下駄などが出土している。

15～18は中世土師皿で、15・16は非ロクロ成形、17・18はロクロ成形である。15の口縁部は軽く外反し、端部を丸くおさめる。16の体部は上位で器厚が肥大し口縁端部を積み上げる。17の体部は中位で外側にやや屈曲する。口縁部は外側を押さえ、端部は積み上げ薄く仕上げる。18の体部は中位で後をつけて内側にやや屈曲したのち外反し、斜め上方に延びる。口縁端部を薄く仕上げる。15・17・18の口縁部内外面、16の内面底部に油煙が付着する。19は白磁の皿である。灰白色の釉が全体に薄く均一にかかる。体部は下部で内側に屈曲し内湾気味に立ち上がる。20は珠洲摺鉢である。器厚はやや肥大し、端部を丸くおさめる。21は珠洲甕である。頸部が“く”の字状に折れ、端部が外傾する。22は越中瀬戸の摺鉢である。内外面に錆釉がかかる。23は片口鉢である。桑山石製で、内外面とも平らに加工される。24は石臼である。目のパターンは細かい。25は刀の鋸である。厚み0.15cmを測る。26～29は漆器である。塗膜は未同定のため実見による判断となるが、全て総黒色漆塗りの漆器と推定される。26は碗の高台部で、内面には赤色漆で三つ巴の文様が描かれる。高台はやや外



第5図 遺構実測図【A・B-1区】(1/80)

側にふんばり、内面は丸みを帯びる。27・28は小皿で、内面には赤色漆で植物系の文様が描かれる。29は椀で、体部は高台から外側に広がって垂直気味に上がる。内面には赤色漆で扇の文様が大きく描かれる。30は露卯下駄で後尾穴部分が破損している。31・32は連歯下駄で前緒穴から前部が欠損する。

#### SD09 (第6・12・13図、図版4・5)

B-2・C区内を南北方向に、B-2区中央から北西方向に延伸する大溝である。SD08を切る。幅2.6～3m、深さ1.5mを測る。断面形は逆台形を呈する。覆土は下層の暗オリーブ灰色粘土と上層の灰褐色粘質土に大別できる。B-2区中央では一部0.2～0.3m程深くなる。遺物は上層から中世土師皿・青磁・瀬戸美濃・珠洲・越前・越中瀬戸が、下層からは中世土師皿・瀬戸美濃・珠洲・漆器・箸状木製品・曲げ物底板・下駄などが出土している。木製品は、SD08同様下層のみから出土している。数点近世遺物(越中瀬戸・伊万里)が出土しているが攪乱による混ざりこみと考えられる。

33～40は中世土師皿で、33・34・36～39は非口クロ成形、35・40は口クロ成形である。33は口縁部を薄く仕上げ、34は体部が外反気味に立ち上がり、中位で外側に屈曲し伸びる。35の体部は中位でやや外反し伸びる。口縁部は薄く仕上げ、端部を積み上げる。36は口縁部でやや外反する。37は底部外面中央を指によって押し上げる。口縁部外面は横1段ナデし、端部を積み上げる。38の体部は中位で外反する。39は底部外面中央を指によって押し上げる”へそ皿状”のものである。40の体部は中位で内傾する。33～35の口縁部には部分的に油煙が付着する。36～38は体部全体に煤が付着し、38の口縁部には部分的にタール状の油煙が付着する。41は竜泉窯系青磁碗である。オリーブ灰色の釉が高台内側を除く大部分にかかる。42～44は瀬戸美濃の天目茶碗で、黒褐色の鉄釉が体部内面全体から外面下部まで均一に薄くかかる。42・43の体部外面下部には暗褐色の錆釉を施す。43の体部は直線的に立ち上がり、中位でやや内側に屈曲したのち上方に伸びる。44の体部外面下部は露胎している。45は伊万里碗である。内外面に染付が描かれ、内面中央には「福」の字が描かれる。46～49は珠洲である。46・47は播鉢で、46は体部上位～口縁部に回転ナデを施す。48は甕、49はR植堂で、49の体部外面には櫛目波状文が施される。50は越中瀬戸の播鉢である。暗赤灰色の錆釉が内外面全体に薄くかかる。51は越前大甕である。外傾ぎみに直立する長い頸部を持つ。52～55は漆器である。塗膜は未確定のため実見による判断となるが、全て総黒色漆塗りの漆器と推定される。52～54は小皿で、内面に赤色漆で扇文が描かれる。52は底部から体部にかけて厚く仕上げ、53の口縁部は外側に立ち上がり、高台部はやや外側にふんばる。54は体部から口縁部までゆるやかに立ち上がる。組み物の食器と考えられる。55は椀で、内外面に赤色漆で文様が描かれる。外面の文様には引掻(針描)技法が用いられるが文様の詳細は不明である。56・57は箸状木製品である。両端が削られる。56は方形、57は円形の断面形である。58は曲げ物の底板である。断面には木釘が残る。59は露卯下駄で前緒穴と前歯差込部が残る。60は釣瓶用部材である。中央を削り両端には紐を引っ掛けるための加工を施す。

#### SD40 (第5・13図)

B-1区北側を東西方向に延伸する溝である。SD06を切る。深さ0.67mを測る。

61は珠洲甕の体部片である。やや焼成不良。

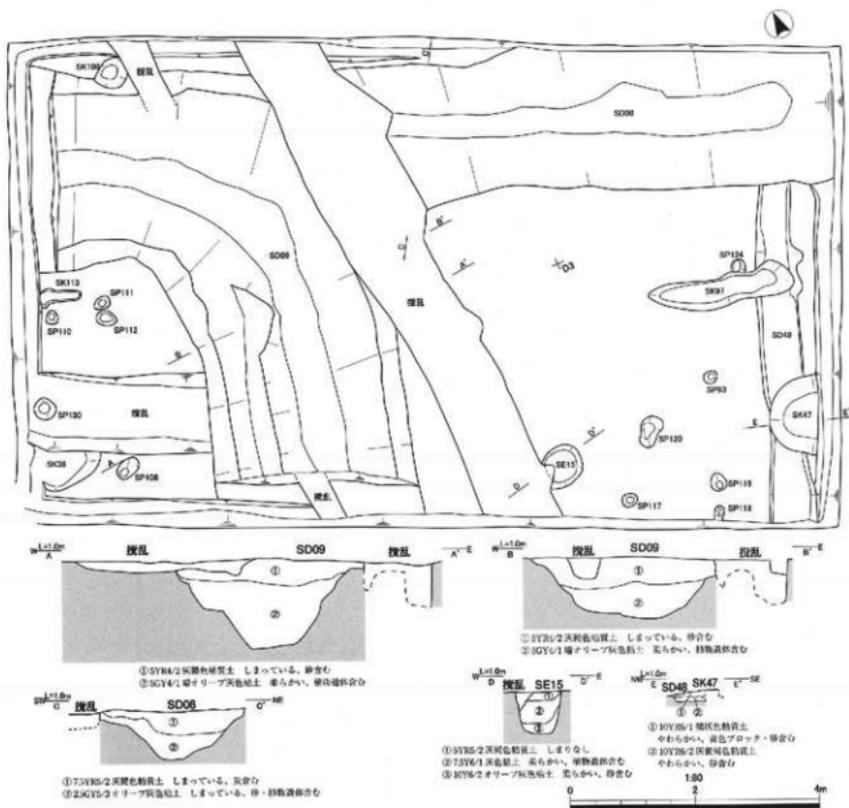
#### SD48 (第6・13図)

B-2区東側を南北方向に延伸する溝である。幅0.5～0.78mを測る。SK47に切られる。

62は瀬戸美濃の小皿である。灰オリーブ色の鉄釉が内面全体から外面の口縁部までかかる。

#### SD53 (第7・13図)

C区北側を東西方向に延伸する溝である。SD100に切られる。幅0.47mを測る。覆土は上層が褐色灰色土、下層は黄灰色土で水平に堆積する。遺物は青磁が出土している。



第6図 遺構実測図 [B-2区] (1/80)

63は竜泉窯系青磁碗の口縁～体部片である。釉は鮮やかな翡翠色で内外面に均一に厚くかかる。

#### SD100 (第7・13図)

C区北側にて南北方向に延伸する溝を検出した。SD53と同軸方向に延伸する。

64は瀬戸美濃の皿である。灰オリーブ色の灰雑が全面に薄く均一にかかっている。

#### SK03 (第5・13図)

B-1区西側に検出した。長径0.85m、短径0.74m、深さ0.15mを測る。断面形は楕円形を呈する。

65は竜泉窯系青磁碗の底部片である。全体にオリーブ灰色の釉葉がかかり、高台内側のみ露胎する。

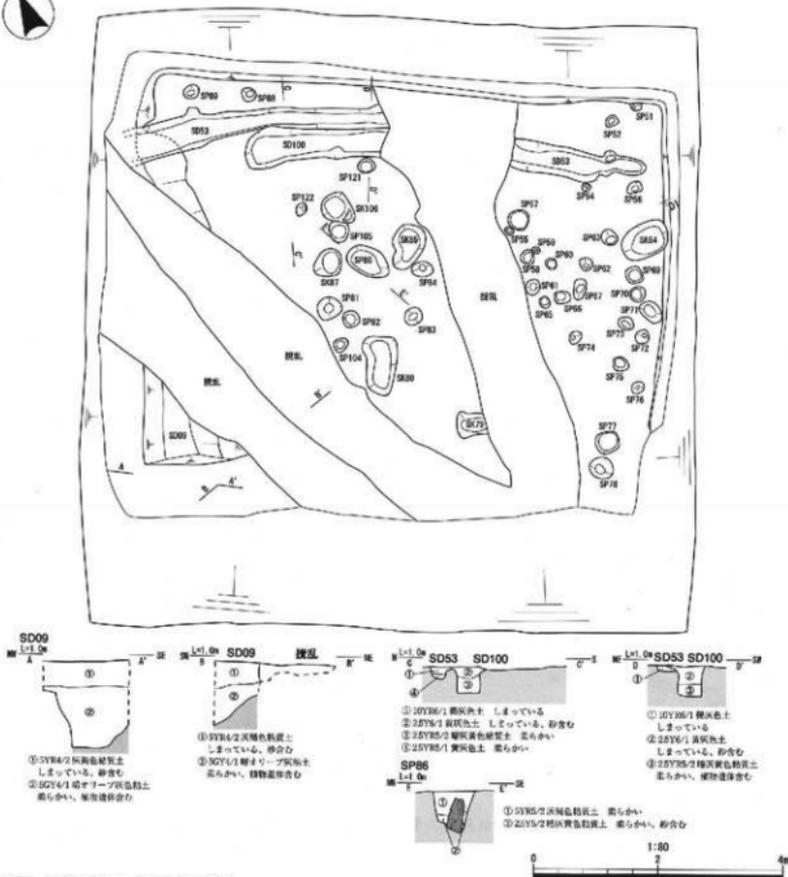
#### SK42 (第5・13図)

B-1区中央にて検出した。覆土は黄灰色粘質土で炭・砂を含む。断面形は楕円形を呈する。

66は中世土師皿である。体部が底部から緩やかに立ち上がり、口縁部は内湾気味に丸くおさまる。内面は全体に横ナデが、体部外面には下位に一段横ナデされる。非ロクロ成形。

#### SP86 (第7図)

C区中央にて柱根を伴う柱穴を検出した。材はバラ科サクラ属。



第7図 遺構実測図 [C区] (1/80)

SE96 (第5・13図・図版3)

B-1区北側にて検出した。長径0.9m、短径0.7m、深さ0.8mを測る。断面形は楕円形を呈する。

67は仕上げ砥石である。一箇所、木組みと砥石の間に木製の楔を打ち込んで砥石を固定してある。砥石には石割の際に生じた筋状の痕跡が見られる。木組みは全体的面加工が施されている。

包含層 (第13図)

C区を除く調査区下層に遺物包含層を確認した。縄文土器が破片のみ4点出土している。

68・69の外面には縄文が施されているが、時期を示すほどの残存量が無いため時期は不明である。

表土中 (第13図)

70は茶臼の下臼である。卸し目がわずかに確認できる。C区SD09近く攪乱内から出土しており、SD09に関連する遺物の可能性がある。

## 第4章 白石遺跡自然科学分析

(株) 吉田生物研究所

### 第1項 試料

試料は小杉町白石遺跡から出土した容器3点、建築部材1点、用途不明品4点の合計8点である。

### 第2項 観察方法

剃刀で木口(横断面)、柀目(放射断面)、板目(接線断面)の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

No.1は数mm立方の試料をエポキシ樹脂に包埋し研磨して、木口(横断面)、柀目(放射断面)、板目(接線断面)面の薄片プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

### 第3項 結果

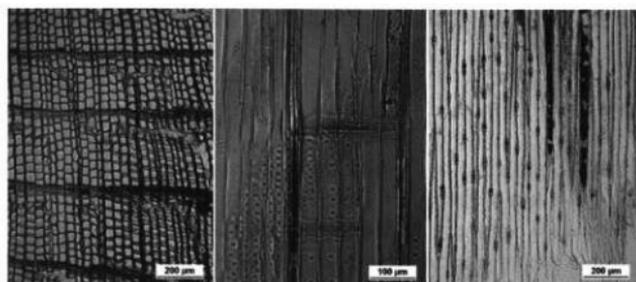
樹種同定結果(針葉樹2種、広葉樹5種)の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

第1表 樹種同定一覧

No.	遺物No.	区・遺構名	品名	樹種
1	-	A区 SX05	木片	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節 (Sect. <i>Prinus</i> Loudon syn. <i>Diversiploae</i> , <i>Dentatae</i> )
2	-	B-1区 SD06	板状木製品	ヒノキ科アスナロ属 ( <i>Thuopsis</i> sp.)
3	-	B-1区 SD07	板状木製品	スギ科スギ属スギ ( <i>Cryptomeria japonica</i> D.Don)
4	29	B-2区 SD08	漆器	トチノキ科トチノキ属トチノキ ( <i>Aesculus turbinata</i> Blume)
5	-	B-2区 SD09	漆器	ブナ科ブナ属 ( <i>Fagus</i> sp.)
6	-	B-2区 SD09	漆器	ブナ科ブナ属 ( <i>Fagus</i> sp.)
7	-	C区 SP86	柱根	バラ科サクラ属 ( <i>Prunus</i> sp.)
8	-	C区 SD09	板状木製品	カバノキ科ハンノキ属 ( <i>Alnus</i> sp.)

第2表 樹種観察表

木製品	利用樹種	No.	点数	材質(考察)
板状木製品	アスナロ属	2	1	木口では道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柀目では放射組織の分背壁孔はヒノキ型からややスギ形で1分野に2~4個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ(ヒバ、アテ)とヒノキアスナロ(ヒバ)があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。
漆器	トチノキ	4	1	散孔材である。木口ではやや小さい道管(〜80 μm)が単独あるいは2~4個放射方向に接する複合管孔を構成する。道管の大きさ、分布数ともに年輪中央部で大きく年輪外縁部ではやや小さくなる傾向がある。軸方向柔細胞は1~3細胞の幅で年輪の一番外側(ターミナル状)に配列する。柀目では道管は単管孔と側壁に交互壁孔、端壁肥厚を有する。放射組織はすべて平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔は六角形をした比較的大きな壁孔が密に詰まって線状になっている(上下縁辺の1~2列の柔細胞に隠れる)。柀目では放射組織は単列で大半が高さ〜300 μmとなっている。それらは比較的大きさが揃って階層状に規則正しく配列しており、肉眼では微細な縞模様(リップルマーク)として見られる。トチノキは北海道、本州、四国、九州に分布する。
	ブナ属	56	2	散孔材である。木口ではやや小さい道管(〜110 μm)がほぼ平等に散在する。年輪の内側から外側に向かって大きさおよび数の減少が見られる配列をする。放射組織には単列のもの、2~3列のもの、非常に列数の広いものがある。柀目では道管は単管孔と階段管孔を持ち、内部には充填物(チロース)が見られる。放射組織は大体平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には大型のレンズ状の壁孔が存在する。柀目では放射組織は単列、2~3列、広放射組織の3種類がある。広放射組織は肉眼でも1~3mmの高さを持った褐色の紡錘形の斑点としてはっきりと見られる。ブナ属はブナ、イヌブナがあり、北海道(南部)、本州、四国、九州に分布する。
柱根	サクラ属	7	1	散孔材である。木口ではやや小さい道管(〜100 μm)がほぼ一定の大きさで、単独あるいは放射方向ないし斜方向に連なり分布している。柀目では道管は単管孔と側壁に交互壁孔及び螺旋肥厚を有する。道管内には褐色物質が見られる。放射組織は同性ないし異性で中央部の平伏細胞と上下縁辺の方形細胞からなる。柀目では放射組織は1~4細胞列、高さ〜1mmからなる。サクラ属はサクラ、ヤマナシなどがあり、本州、四国、九州、琉球に分布する。

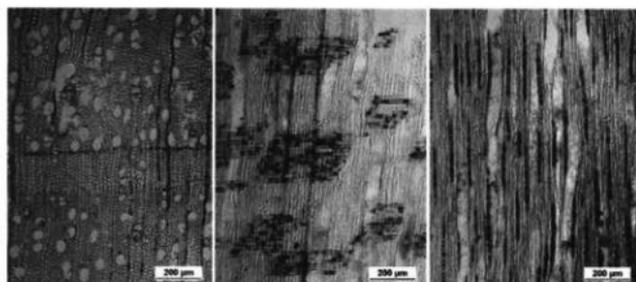


1. No. 2 アスナロ属

- a. 木口
- b. 径目
- c. 板目

遺物 No. :-

品 名 : 板状木製品

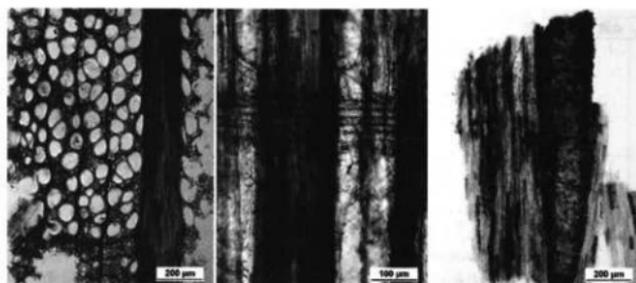


2. No. 4 トテノキ

- a. 木口
- b. 径目
- c. 板目

遺物 No. :29

品 名 : 漆器

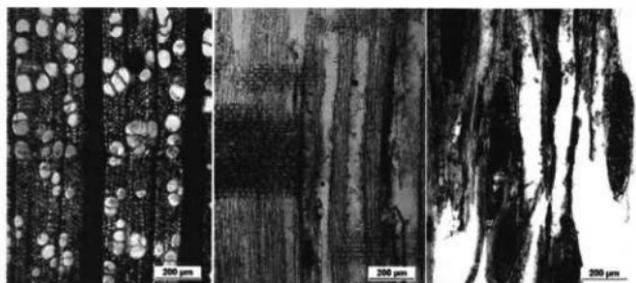


3. No. 6 ブナ属

- a. 木口
- b. 径目
- c. 板目

遺物 No. :-

品 名 : 漆器



4. No. 7 サクラ属

- a. 木口
- b. 径目
- c. 板目

遺物 No. :-

品 名 : 柱根

第 8 図 樹種観察図

## 第5章 総括

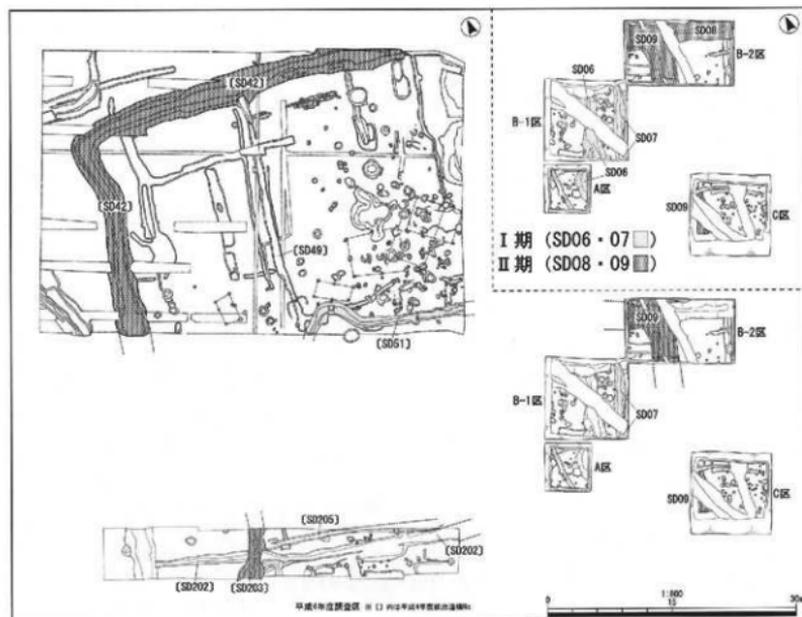
### 第1項 平成4年度調査結果と今回の調査結果を踏まえて ※ 内は平成4年度検出遺構No.

平成4年度調査では、北側調査区にて外周をL字に延伸する〔SD42〕、調査区中央を南北方向に延伸する〔SD49〕、遺構集中地区の南側を東西に延伸する〔SD51〕が確認されている。南側調査区では調査区中央を南北方向に延伸する〔SD203〕、調査区内を東西方向に延伸する〔SD202〕・〔SD205〕が確認されている（第9図参照）。規模・方向性から〔SD42〕は〔SD203〕に、〔SD49〕は〔SD202〕・〔SD205〕に接続する可能性がある。これら溝はいずれも排水などの機能を兼ねた区画溝と考えられる〔桐谷1994〕。

**I期** A・B-1区で検出したSD07は断面形態の特徴から〔SD51〕に接続する可能性が高い。遺物は中世土師皿・青磁・珠洲・箸状木製品が出土している。また、SD07と平行して延伸するSD06からは中世土師皿・白磁・珠洲・銅銭・木製品が出土しており、両溝とも15世紀末頃に機能していた区画溝だと考えられる。

**II期** B-2区にてSD08をB-2・C区にてSD09を検出した。両溝とも下層からは木製品を含む15世紀末～16世紀中葉頃の遺物が出土している。SD08上層からは越中瀬戸が、SD09上層からは越中瀬戸・伊万里といった近世の遺物が出土しており、両溝とも下層が機能した後、近世まで時間を費やしながらい埋没していったと推定される。また、SD09は最深度で15mを測り、同様の規模である〔SD42〕に接続する可能性がある。

本遺跡は、15世紀末頃（I期）と15世紀末～16世紀中葉（II期）それぞれの時期に区画された生活居住域があったものと推定される。

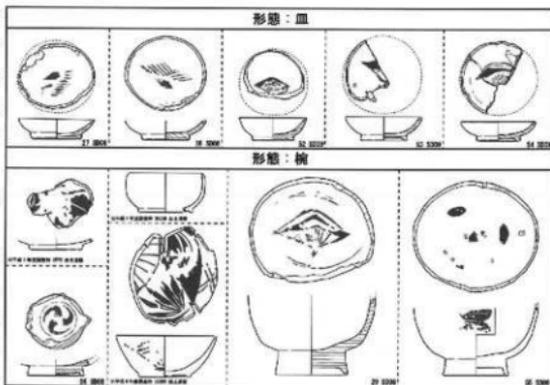


第9図 遺構配置図(1/600)

## 第2項 出土漆器から見る遺跡背景

本遺跡は地下水位が高い湿地帯であるため、木製品の保存状態が良好であった。SD08・09内からは合計15点（破片・未実測品含む）の漆器が出土している。ここでは、簡単に特徴をまとめる。尚、漆器は未実定であり、色調は実見したままを表記している。

漆器の器種は皿と椀である。椀は高台が高くなり底厚が厚いもの（29・55）・高台内面が丸みを帯びるもの（26）・高台が低く底厚が薄いもの（平成4年度出土漆器）が確認できる。高台が低い椀は立



第10図 白石遺跡出土漆器一覧（1/6）

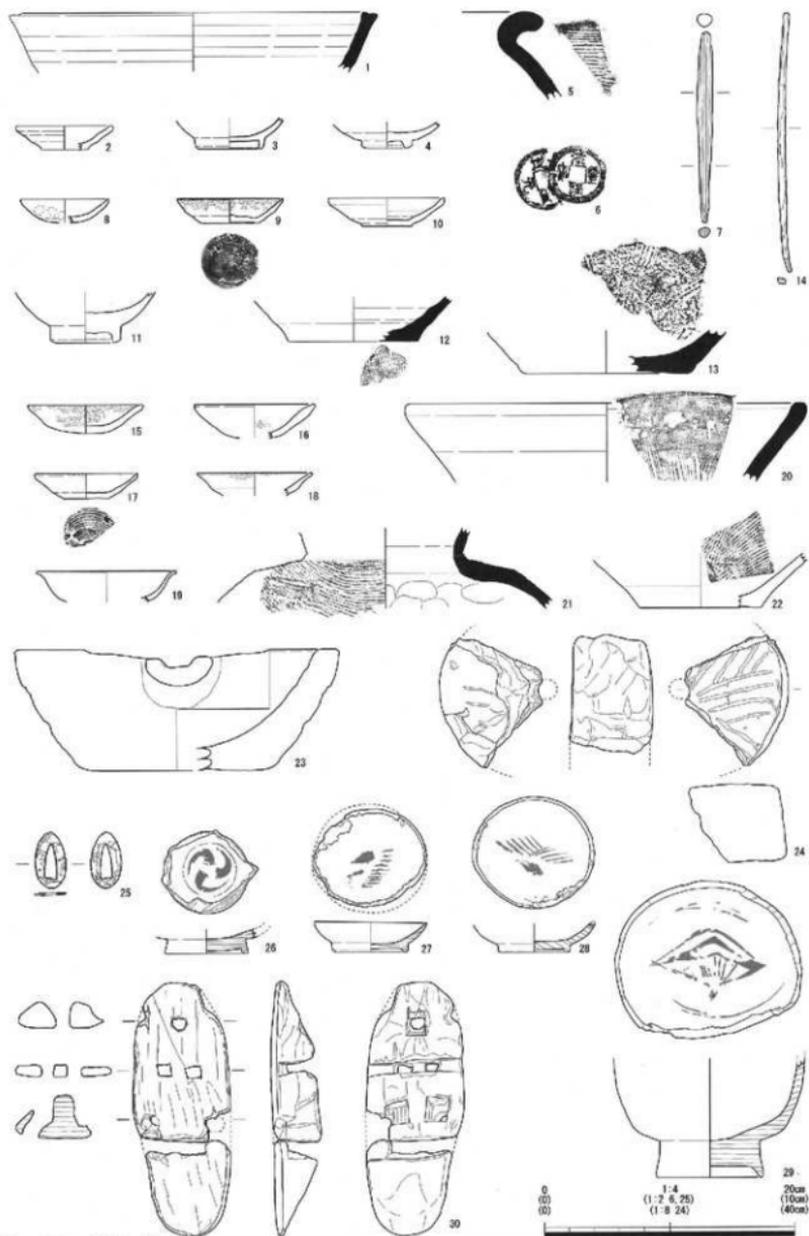
ち上がりが垂直のもの・やや外側にふんばるものと分けられる。皿は高台が垂直に立つもの・外側にふんばるものが確認できる。上塗色は主に総黒色漆塗りで、他に内外面赤色漆塗りが2点（小皿破片、1点の高台内側は黒色漆塗り仕上げ）出土している。文様は主に扇文が描かれ、他に植物系文、三つ巴文が描かれている。また、破片の為未掲載だが、紅葉を描いた漆器も出土している。No.55は外面に引掻（針描）技法を用いて描かれており高い漆工技術が伺える。樹種実定を行った3点のうちNo.29がトチノキ科トチノキ属、他2点（未実測）がブナ科ブナ属であった。塗膜は未分析のため下地は不明である。木胎の特徴・器種形態・描かれている文様から、本遺跡で出土した漆器は15世紀末～16世紀中葉の普及品と考えられ、漆・漆器が日常に欠かせない生活用品だったと推定される。

## 第3項 まとめ

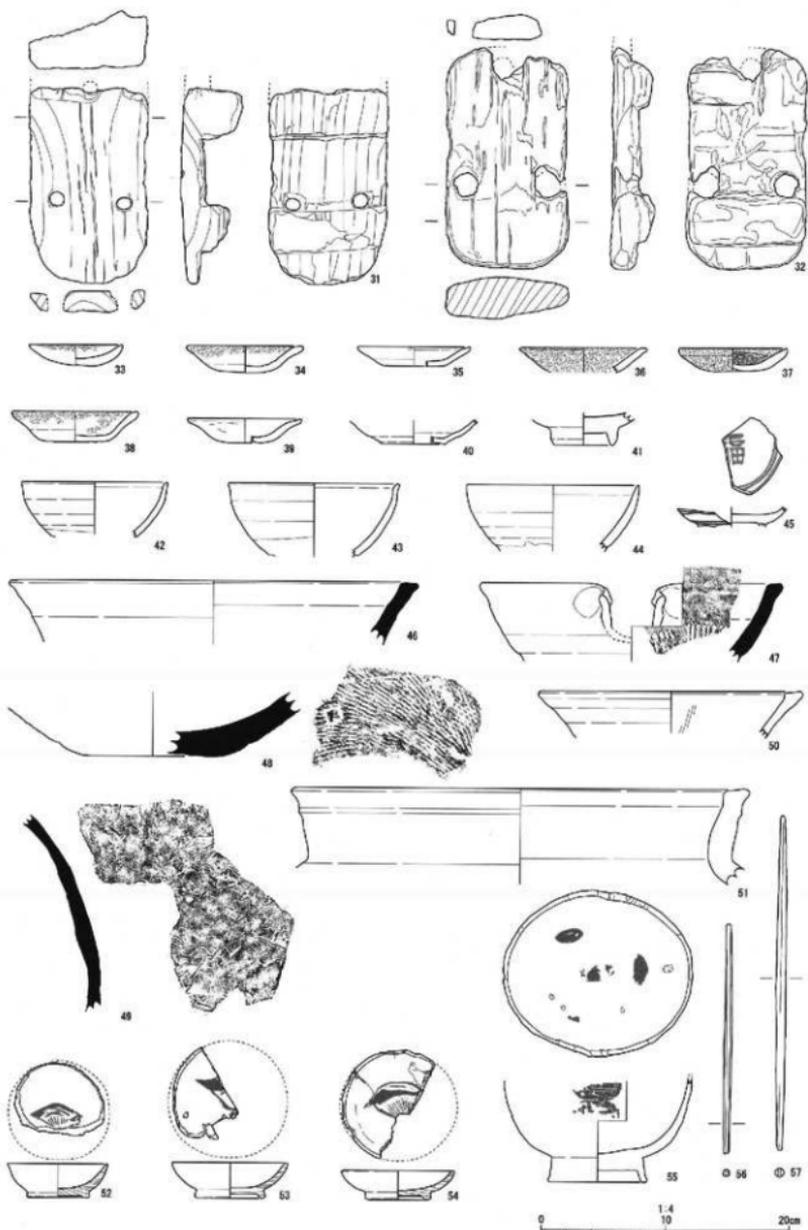
平成20年度調査では、平成4年度確認された生活居住域の南東側境界がSD06・07（Ⅰ期）とSD08・09（Ⅱ期）に分かれることが確認できた。また、SD08・09の大溝内に廃棄された漆器は、小出城跡（富山市）・木舟城跡（高岡市）・梅原胡摩堂遺跡（南砺市）等、県内の主要な中世城跡出土漆器と共通した文様・形態であり、本遺跡は15世紀末～16世紀中葉にかけて中世居館として重要な位置を担っていたと考えられる。

## 引用・参考文献

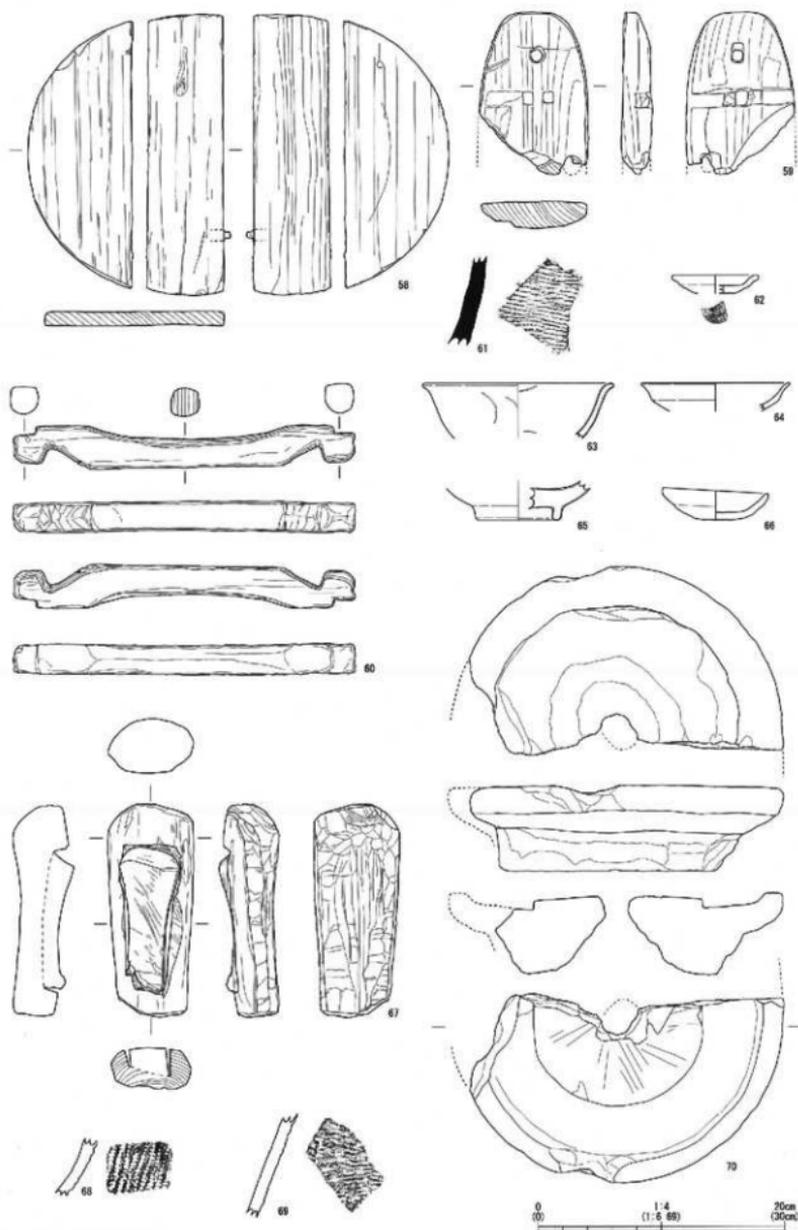
- 射水市教育委員会 1994 『小杉町白石遺跡発掘調査報告』  
 福門町（現高岡市）教育委員会 2002 『木舟城跡発掘調査報告』  
 富山市教育委員会 2006 『富山市木橋金広・中馬場遺跡発掘調査報告書Ⅱ』  
 富山市教育委員会 2006 『富山城発掘調査報告書』  
 富山市教育委員会 2007 『富山城跡試掘確認調査報告書』  
 富山市教育委員会 2007 『富山市小出城跡発掘調査報告書』  
 江戸遺跡研究会 2001 『図説 江戸考古学研究辞典』 柏書房  
 宮田進一 1997 『越中国における土師器の編年』 『中・近世の北陸-考古学が語る社会史-』 北陸中世土器研究会編  
 富山県文化振興財団蔵文化財調査事務所 1996 『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺物編）』



第 11 图 遗址实测图 SD01(1) SD062 ~ 7) SD078 ~ 14) SD0815 ~ 30)



第12图 遗物実測图 SD0831 ~ 32) SX0833 ~ 57)



第13图 遗物实测图 SD0968 ~ 69 SD4061 SD4862 SD8363 SD10064 SK0365 SK4266 SE9667 包含层(68,69) 表土中(70)

第3表 遺物観察表

調査No.	遺物No.	グランド	地区・遺物名	種類	規格	長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (cm)	重量 (g)	備考	
11	1	A39	A 岸 5001	石片	短片	200	-	-	-	片	
	2	B37	B1 岸 5006	中石片	短片	74	19	36	20	片	
	2	H13	B1 岸 5006	石片	短片	-	-	46	20	片	
	4	A36	A 岸 5009	石片	短片	-	-	-	40	片	
	5	B34	B1 岸 5007	石片	短片	-	-	-	40	片	
	8	H14	B1 岸 5007	中石片	短片	78	19	80	20	片	
	9	B33	B1 岸 5007	中石片	短片	86	20	45	20	片	
	10	B34	B1 岸 5007	中石片	短片	92	23	41	20	片	
	11	H15	B1 岸 5007	中石片	短片	-	-	-	25	片	
	12	B34	B1 岸 5007	石片	短片	-	-	-	33	片	
	13	H14	B1 岸 5007	石片	短片	-	-	-	28	片	
	15	H16	B2 岸 5008	中石片	短片	93	23	64	20	片	
	16	D42	B2 岸 5008	中石片	短片	93	27	64	20	片	
	17	H16	B2 岸 5008	中石片	短片	82	21	27	20	片	
	18	H16	B2 岸 5008	中石片	短片	82	21	27	20	片	
	19	D42	B2 岸 5008	石片	短片	112	-	-	-	片	
	20	D46	B2 岸 5008	石片	短片	324	-	-	-	片	
	21	H16	B2 岸 5008	石片	短片	-	-	-	-	片	
	22	D42	B2 岸 5008	石片	短片	-	-	-	-	片	
	23	C44	B2 岸 5009	中石片	短片	15	17	60	20	片	
	24	C14	B2 岸 5009	中石片	短片	93	22	60	20	片	
	25	C47	B2 岸 5009	中石片	短片	89	16	45	20	片	
	26	C43	B2 岸 5009	中石片	短片	98	-	-	-	片	
	27	C12	C1 岸 5010	中石片	短片	94	19	80	20	片	
	28	C27	C2 岸 5010	中石片	短片	109	43	65	20	片	
	29	C21	C1 岸 5010	中石片	短片	83	40	60	20	片	
	30	C27	C2 岸 5010	中石片	短片	-	-	-	-	片	
	12	41	C43	B2 岸 5009	石片	短片	-	-	46	20	片
		42	C47	B2 岸 5009	中石片	短片	118	-	-	-	片
		43	C10	B2 岸 5009	中石片	短片	118	-	-	-	片
44		C43	B2 岸 5009	中石片	短片	118	-	-	-	片	
45		C32	B2 岸 5009	中石片	短片	-	-	65	20	片	
46		C50	B2 岸 5009	石片	短片	216	-	-	-	片	
47		C47	B2 岸 5009	中石片	短片	249	-	-	-	片	
48		C32	B2 岸 5009	石片	短片	-	-	114	20	片	
49		C32	B2 岸 5009	石片	短片	-	-	-	-	片	
50		C43	B2 岸 5009	中石片	短片	210	-	-	-	片	
51		C27	C1 岸 5010	中石片	短片	-	-	-	-	片	
51		C27	C1 岸 5010	中石片	短片	-	-	-	-	片	
51		D43	B1 岸 5010	石片	短片	-	-	-	-	片	
52		C20	B1 岸 5010	中石片	短片	67	15	38	20	片	
53		C13	C1 岸 5010	中石片	短片	24	-	-	-	片	
53		C20	C1 岸 5010	中石片	短片	117	-	-	-	片	
13		60	H13	B1 岸 5010	石片	短片	-	-	64	20	片
		60	H13	B1 岸 5010	中石片	短片	86	28	24	20	片
	60	H36	A 岸 5010	石片	短片	-	-	-	-	片	
	60	H36	B1 岸 5010	石片	短片	-	-	-	-	片	

第4表 遺物観察表 (金属製品)

調査No.	遺物No.	グランド	地区・遺物名	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (cm)	重量 (g)	備考
11	6	B43	B1 岸 5006	短針	2.8 (針)	0.1	46	-	短針 (C10, 北, 東)
	6	B43	B1 岸 5006	短針	2.8 (針)	0.1	46	-	短針 (C10, 北, 東)
	20	D42	B1 岸 5006	短針	4.6	25	0.5	60	短針 (C10, 北, 東)

第5表 遺物観察表 (石製品)

調査No.	遺物No.	グランド	地区・遺物名	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (cm)	重量 (g)	備考
11	20	C50	B2 岸 5009	石片	170	20	135	60	石片 (C10)
	24	D42	B2 岸 5009	石片	150	760	120	60	石片 (C10)
13	67	H34	B1 岸 5010	石片	173	69	45	-	石片 (C10) 中央部のみである。石片 (C10) 中央部のみである。石片 (C10) 中央部のみである。
	70	C32	C1 岸 5010	石片	204	204	82	-	石片 (C10) 中央部のみである。石片 (C10) 中央部のみである。

第6表 遺物観察表 (漆器) ※塗膜は未測定であり、地色は実見に基づく

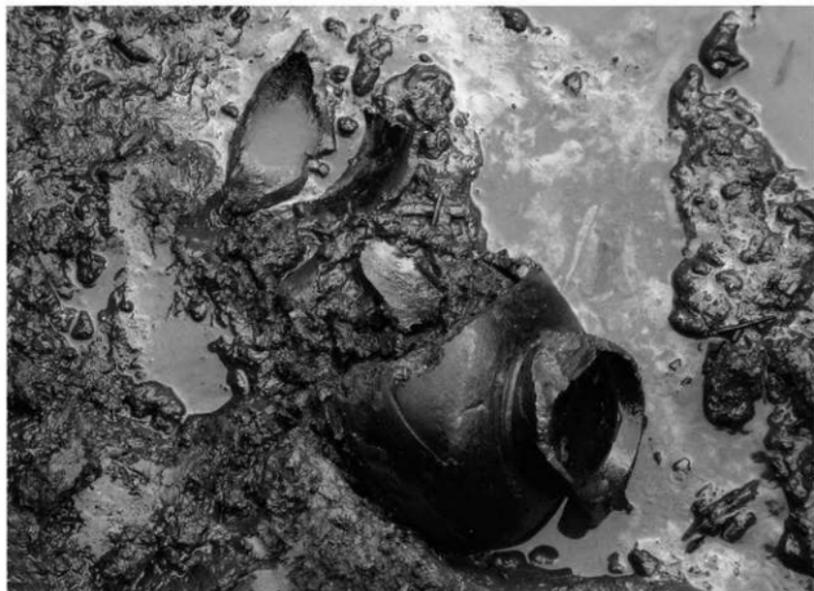
調査No.	遺物No.	グランド	地区・遺物名	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (cm)	形状			備考
								外側	内側	文様	
11	26	D16	B2 岸 5008	皿	200	64	-	外側	内側	文様	漆器
	27	D46	B2 岸 5008	皿	60	60	56	外側	内側	文様	漆器
	28	H16	B2 岸 5008	皿	228	56	60	外側	内側	文様	漆器
	29	D46	B2 岸 5008	皿	82	97	28	外側	内側	文様	漆器
	30	C43	B2 岸 5009	皿	81	78	60	外側	内側	文様	漆器
12	50	C47	B2 岸 5009	皿	250	52	60	外側	内側	文様	漆器
	44	C46	B2 岸 5009	皿	60	60	60	外側	内側	文様	漆器
	55	C32	B2 岸 5009	皿	60	60	60	外側	内側	文様	漆器
	55	C32	B2 岸 5009	皿	60	60	60	外側	内側	文様	漆器

第7表 遺物観察表 (木製品)

調査No.	遺物No.	グランド	地区・遺物名	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (cm)	重量 (g)	備考
11	7	H13	B1 岸 5006	木片	258	120	10	10	木片
	14	B35	B1 岸 5006	木片	207	68	68	68	木片
	36	C43	B2 岸 5009	木片	204	70	37	37	木片
	31	H13	B1 岸 5006	木片	158	56	47	47	木片
12	32	D12	B2 岸 5008	木片	178	98	23	23	木片
	36	C44	B2 岸 5009	木片	106	66	66	66	木片
	37	C47	B2 岸 5009	木片	283	67	67	67	木片
	38	C13	B2 岸 5009	木片	104	104	104	104	木片
13	58	C43	B2 岸 5009	木片	113	28	22	22	木片
	60	C47	B2 岸 5009	木片	277	35	35	35	木片



調査区全景 (西から)



B-2区 SD08 遺物出土状況 (西から)

[A区] 図版2



調査区完掘状況 (北から)



SD01 遺物出土状況 (南から)



SD01 完掘状況 (南から)



SD06 遺物出土状況 (北から)



SD06 完掘状況 (北から)



調査区完掘状況 (北から)



SD06 銅銭出土状況 (西から)



SE96 遺物出土状況 (北から)



SD07 土層 (南から)



SD07 完掘状況 (南から)

[B-2区] 図版4



調査区完掘状況 (西から)



SD08 遺物出土状況 (南西から)



SD08 完掘状況 (西から)



SD09 遺物出土状況 (南から)



SD09 完掘状況 (南から)



調査区完掘状況 (南西から)



SP86 柱根出土状況 (南から)



SP69 完掘状況 (南西から)



SD09 遺物出土状況 (北から)



SD09 土層 (北から)

【作業風景等】 図版 6



重機掘削（南から）



調査区壁切り作業（南から）



測量風景（南から）



測量風景（南から）



遺構掘削作業（北から）



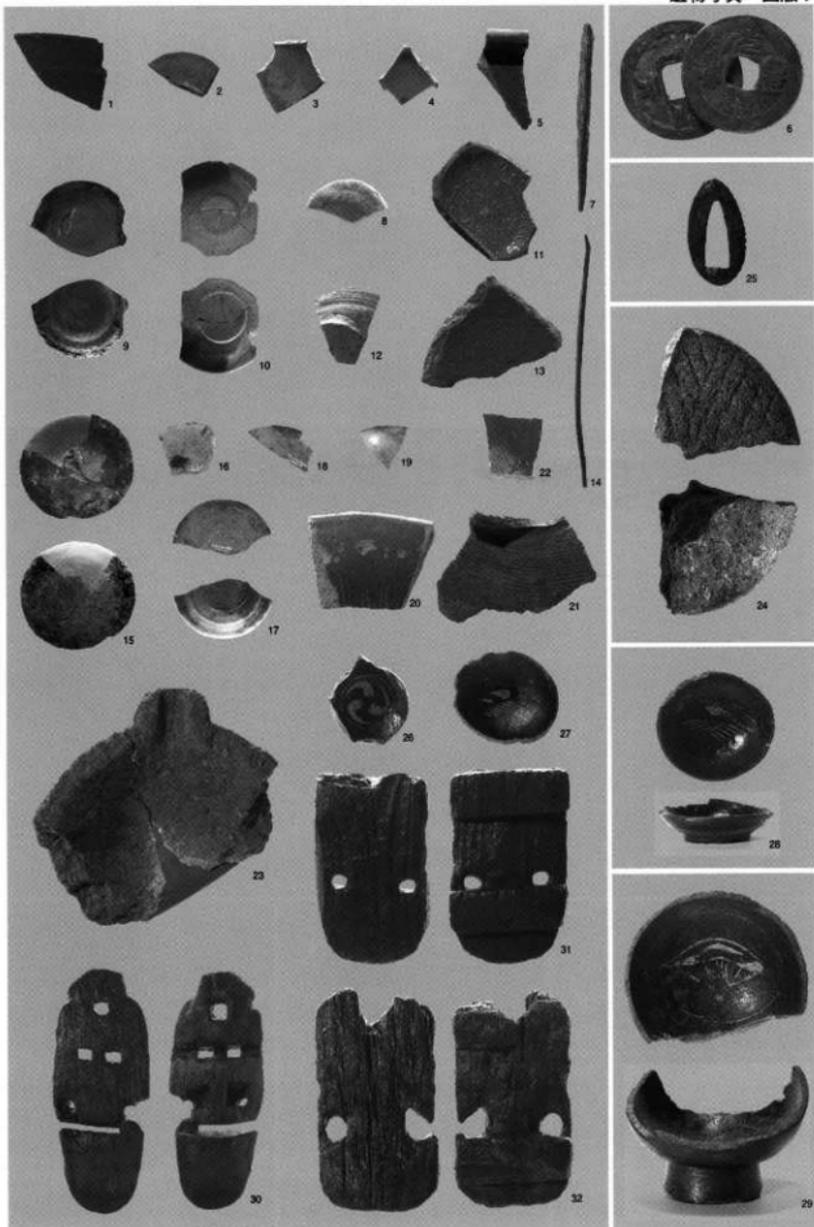
遺構掘削作業（西から）

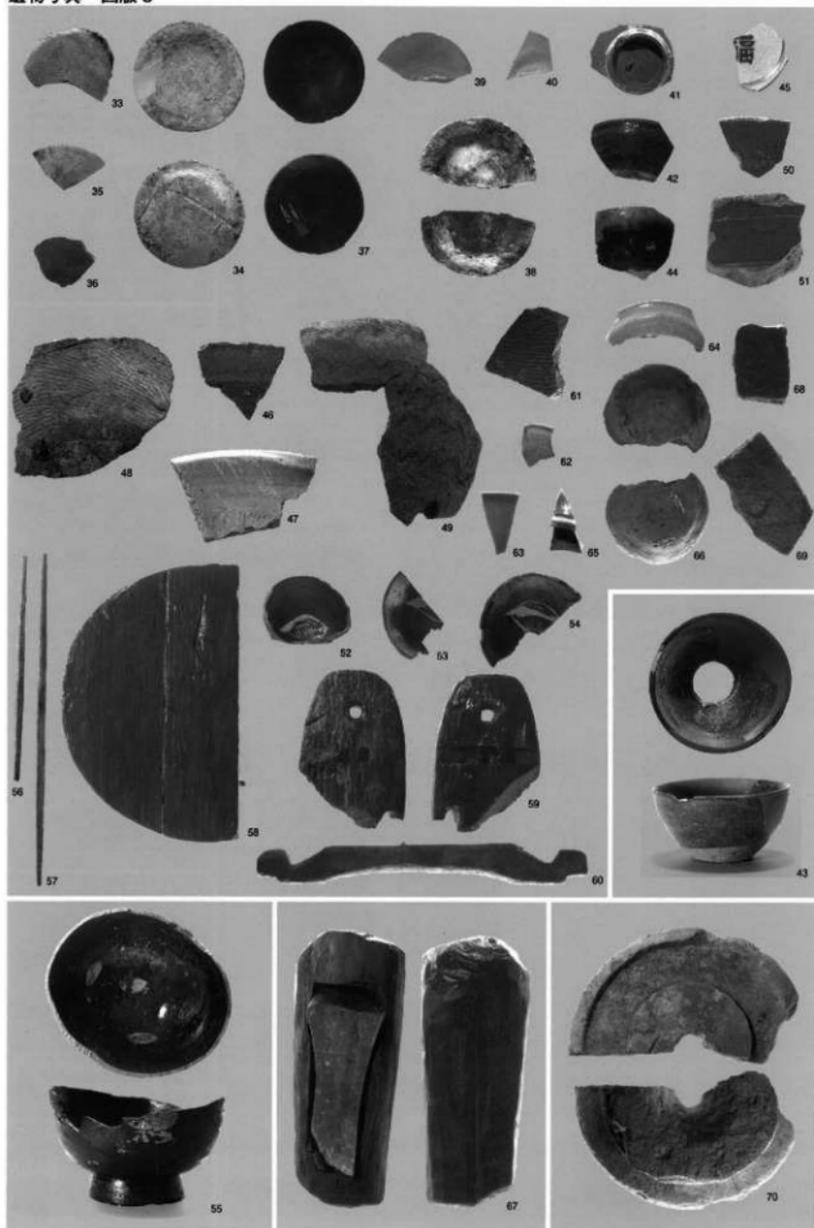


遺構掘削作業（西から）



調査区埋め戻し作業（南西から）





## 報告書抄録

ふりがな	しらいしいせきはつくつちょうさほうこくよん							
書名	白石遺跡発掘調査報告Ⅳ							
副書名	河上金物株式会社濁水処理施設移設に伴う発掘調査							
編著者名	金三津美則（射水市教育委員会） 稲垣裕二 菊地由里子 朝田要（北陸航測株式会社）							
編集機関	1) 射水市教育委員会 2) 北陸航測株式会社							
編集機関所在地	1) 〒933-0292 富山県射水市加茂中部 893 番地 2) 〒933-0866 富山県高岡市清水町 3-4-40							
発行年月日	西暦 2009 年 5 月 29 日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
白石遺跡	富山県射水市 鷺塚	16211 (16381)	066 (006)	36° 43' 23"	137° 7' 38"	20081201～20090213	337㎡	新幹線関連事業に伴う濁水処理施設移設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物		特記事項	
白石遺跡	富山県射水市 鷺塚	中世		溝 土坑 井戸 ピット 不明遺構	中世土師皿・珠洲・青磁・白磁・瀬戸美濃・越前・伊万里・越中瀬戸・銅銭・鈔・石臼・茶臼・木製品			
要約	平成 20 年度調査では、平成 4 年度同様、居住区を区画すると推定される大溝を検出した。外周を区画すると考えられる大溝からは主に、中世土師皿・珠洲・青磁・瀬戸美濃・木製品など 15 世紀末～16 世紀中葉頃の遺物が出土している。							

※ コード欄の 0 内の数字は合併前の富山県埋蔵文化財包蔵地地図の遺跡番号を示す。

### 白石遺跡発掘調査報告Ⅳ

-河上金物株式会社濁水処理施設移設に伴う埋蔵文化財発掘調査-

平成 21 年 5 月 29 日

発行 射水市教育委員会

編集 射水市教育委員会

北陸航測株式会社

印刷 株式会社ニューエツ

